

平成30年度 学校評価のまとめ

1. 実施 平成30年4月～平成31年2月の教育活動等の自己評価をして平成31年2月末に提出

2. 該当職員

教諭・講師	事務関係	総計
66	9	75

3. 点検シートの種類(3種) ①学習指導(教科) ②生徒指導(HR・生活) ③事務関係

4. 判断基準

A	B	C	D
十分満足できる	おおむね満足できる	少々努力を要する	かなり努力を要する

5. 教諭・講師関係の大項目の内容と集計

①学習指導(教科)・・・学習計画、教科連携、授業改善、学習態度の4項目

★総合集計(4項目)

評価基準	A	B	C	D
H30 %	36.7	54.1	8.5	0.7
H29 %	38.2	54.0	7.3	0.5
H28 %	40.2	51.2	8.2	0.2
H27 %	39.1	53.8	6.7	0.4
H26 %	38.9	53.8	7.3	0.0

②生徒指導(HR・生活・特別)・・・生徒理解、学習・進路、集団生活、生活指導、家庭と連携、分掌間連携環境整備、表簿管理の8項目

★総合集計(8項目)

評価基準	A	B	C	D
H30 %	28.3	53.7	16.2	1.8
H29 %	30.7	54.0	13.0	2.3
H28 %	33.0	53.7	12.4	0.8
H27 %	32.7	54.7	11.7	0.8
H26 %	33.2	55.8	10.8	0.2

6 事務関係の大項目の内容と集計

業務処理・分掌運営、職務能力向上、他の職員との連携、家庭・地域との連携、倫理観の5項目

★総合集計(5項目)

評価基準	A	B	C	D
H30 %	30.2	44.6	35.2	0.0
H29 %	35.8	36.0	28.2	0.0
H28 %	26.7	44.0	29.3	0.0
H27 %	24.2	61.2	14.5	0.0
H26 %	39.6	49.5	10.9	0.0

7 生徒学校評価アンケート集計結果

判断基準

5	4	2	1
よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない

アンケート項目と結果(数値は判断基準の平均)

項目	1年生		2年生		3年生	
	H30	H29	H30	H29	H30	H29
建学の精神・校訓・自立のための心得を理解している	4.0	3.8	3.7	3.8	4.0	4.1
授業はだいたいわかりやすい	3.7	3.7	3.5	3.7	4.0	4.0
授業の進み方はちょうどよい	3.8	3.7	3.6	3.7	4.1	4.0
将来の進路目標をもっている	3.6	3.6	3.8	3.9	4.5	4.4
進路目標達成のため努力している	3.3	3.4	3.4	3.6	4.3	4.2
友人に対する思いやりや周囲への気配りができている	4.2	4.1	4.1	4.2	4.4	4.3
学校行事やクラスの活動に積極的に参加している	4.0	4.1	3.9	4.1	4.2	4.3
学校の美観に努めている	3.5	3.7	3.5	3.6	3.8	3.8
部活動や生徒会活動・ボランティア活動に参加している	3.8	3.8	3.7	3.5	3.6	3.5
学校から家庭への配布物は持ち帰っている	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.2

※集計総数・・・1, 280名(平成30年度)

8 保護者学校評価アンケート集計結果

判断基準

5	4	2	1
よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない

アンケート項目と結果(数値は判断基準の平均)

項目	H30	H29
入学させてよかった	4.2	4.4
学校生活の様子がよくわかり、学校の雰囲気はよい	3.8	4.0
教育活動・カリキュラムは特徴がある	3.8	3.8
施設設備などの教育環境は充実している	3.5	3.5
進路指導は充実している	3.9	4.0
部活動は充実している	4.2	4.1
生活指導は熱心である	4.0	4.0
子どもの自学自習の習慣が身につけてきた	3.1	2.8
高校生活を通じて子供の進路や夢が明確なものとなった	3.4	3.4
国府高校への進学を身近な人に勧めたい	3.8	4.0

※保護者へのアンケートは用紙を生徒託送し集計したものです。

9 まとめ

- 教職員の全体的な自己評価は、「(A)十分・(B)おおむね満足できる」が二つの項目を除いて80%を上回り、教員としての高い意識を持ち、生徒を指導してこうという前向きな姿勢が伺える。このことは「自立のための生徒心得」の徹底や「キャリア教育の推進」などにより確実に生徒の資質を高め、「真に役立つ人材の育成」を教育の方針の一つとする取り組みが浸透していると考えられる。
また、学習指導の評価では、「(A)十分・(B)おおむね満足できる」が、3項目で90%を上回っている。これは、多くの教員が学校の教育目標の趣旨を理解し、生徒一人ひとりの実態に応じた授業展開に努め、真剣に取り組んでいる結果だと思われる。
一方、生徒指導の評価では「集団生活」の項目で「(A)十分・(B)おおむね満足できる」が68.3%しかなく、「(C)少々努力を要する」が26.8%になっている。LHRでの話し合いや、クラス活動の強化、帰属意識を育てる試み等改善の必要がありそうだ。また「家庭との連携」も昨年より評価を下げてしまい、学級通信や電話連絡を活発に行い、二者面談、三者面談で生徒・保護者の意思を十分に汲み取ることが必要である。
- 生徒のアンケート結果より、平成30年度は平成29年度より1年生と3年生で多くの項目の数値が上昇または同じ、逆に2年生では数値を下けている項目が多い。また、最後の学年である3年生になると10項目中8項目で4.0を超えて、高い数値になっている。
このことから1・3年生に関しては、学校生活に満足し、「自立のための生徒心得」の徹底やさまざまな教育活動における取り組み(キャリア教育他)また学校行事等を通して落ち着いた学校生活を送り、自分を見つめ日々の学習や自分の進路実現に向けて、前向きに取り組んでいる表れと思われる。
ただ、2年生に関しては中間学年であり、将来に対する不安や焦り等の様々な要因により、一時的に下がったものと判断している。
- 保護者のアンケートの結果より、平成30年度は平成29年度と比べると、2項目で数値が上昇し、4項目で数値が下降した。特に「子どもの自学自習の習慣が身につけてきた」は3.1となり、本校で進めている「学習時間の確保」が少しか改善されてきたと思われる。しかし、全体的には保護者よりある一定の評価を頂いているものこの以上評価が落ちない様、家庭と綿密に連携をはかり、学校行事・クラス懇談会・三者面談などを通して、保護者とのコミュニケーションを深め、期待に応えられる様に努力していかなければならない。全項目で4.0以上にできるように全職員で頑張っていきたい。